

氏名	櫻井育穂	部署	看護学科	職名	講師
研究分野	小児看護学				
学位	修士(看護学)				
学歴	1997年北里大学看護学部看護学科卒業、2007年北里大学大学院看護学研究科博士前期課程修了				
経歴	2013年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師				
所属学会(役職)	日本小児看護学会、日本小児がん看護学会				

【2016年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	該当なし				
2					
3					
(2) 論文					
1	思春期・青年期の先天性心疾患患者とその親の成人型医療への移行に関する認識とその相違	単著	日本小児看護学会誌 25巻3号 Page32-38	櫻井育穂	2016.11
2	小児医療施設におけるオレムセルフケア不足理論の看護過程への活用状況	共著	日本小児看護学会誌 25巻3号 Page17-23	櫻井育穂、添田啓子 他	2016.11
3					
(3) 学会発表					
1	親のケア能力・子どものセルフケア能力獲得を支援する看護師の教育指導力の促進 —平成24・26年度意識調査結果からとらえた看護師の看護過程の変化—	共著	日本小児看護学会第26回学術集会、大分	○櫻井育穂、添田啓子 他	2016.7
2					
3					
(4) その他					
1	該当なし				
2					
3					
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	「成人先天性心疾患患者と家族の移行期支援におけるアセスメントツール開発にむけた研究」(研究代表者)			2015.4~2017.3
2	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	「親のケア能力・子どものセルフケア能力獲得を支援する看護師の教育・指導力の促進」(研究代表者 添田啓子)(研究分担者)			2016.4~2018.3
3	科学研究費助成事業 基盤研究(A)	「オレムのセルフケア理論を基盤とした『子どもセルフケア理論』の構築」(研究代表者 片田範子)(連携研究者)			2015.4~2017.3
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	小児看護学Ⅱ	2016.1	血液腫瘍疾患(急性リンパ性白血病)、先天性心疾患をもつ子どもと家族への看護について、理論やガイドライン、学術論文等を参考に講義を行い、看護国家試験における状況設定問題への対策として、上記疾患の病態生理・治療・看護について事例を用い、確認テストを実施した。		

2	看護学入門	2016.4~7	看護学における学習の仕方や、他者とのコミュニケーションを学べるよう、ガイダンス、グループワークを行う。特定の課題に関するグループワークを行い、ディベートを実施し、成果物をオープンキャンパスで展示した。
3	卒業研究	2016.4~2017.3	5名担当。データ収集方法及び論文作成指導を実施し、成果を上げた。
4	小児健康生活論(大学院)	2016.5	CNS課程1名受講。家族看護における、家族の発達から理論や研究等を用いて講義した。また、実践事例を提供しディスカッションを行い理解を深めた。
5	看護学演習(小児看護)(大学院)	2017.7	CNS課程1名受講。小児看護における子どもの発達スクリーニングとフィジカルアセスメントについて、DENBER IIを用いた実践事例についてディスカッションを行い理解を深めた。
6	小児看護援助法Ⅱ(大学院)	2017.1・2	CNS課程1名受講。子どもと家族の事例分析を通し、CNSの役割について理解を深めた。

(2) 演習

1	小児看護学Ⅲ	2016.1	学内実習を伴うPBLチュートリアルの学習方法を用い、学生が自主的に学習できるよう、科目責任者として円滑化を図り、且つチューターとしての役割を果たした。シミュレーションを通し、事例のイメージ化を図り、事例シートは実習等で活用できるよう、より臨床に即したデータや病状を追記・修正し作成した。
2	子どもの保健	2016.4~7	講義形式による知識・役割理解を促し、その後演習を実施。演習シートを作成し、技術演習の方法に加え、ケアの根拠や臨床上のポイントを記し学生の評価を得た。
3	小児看護学Ⅳ	2016.7~8	事例に即した、小児看護学特有の看護技術についてロールプレイ等を用いて指導し、実践における根拠を検討できるようファシリテートした。また、技術テストを実施することで安全への意識を高めた。

(3) 実習

1	総合実習	2016.7	自分の課題や技術力と対峙し、課題を探究できるよう、ゼミを行い実習計画書を作成。その後3病棟(各病棟4~5名)で、実習を行った。実習中はカンファレンス・看護記録・個別面接を実施。また、安全・安楽に対象者へ看護介入できるよう担当教員への助言や臨床指導者と連携し、成果を上げた。
2	小児看護学実習	2016.10~12	1グループ2週間実習を4クール実施。子どもの権利を理解し、対象を理解し統合的に捉え看護の必要性と方向性を考え、実践・評価できるよう、カンファレンス(各2回)・看護記録・個別面接(各2回)実施。また、子どもの安全・安楽を守る事ができるよう臨床指導者との連携のもと付き添うことで、事故なく実習を終え成果を上げた。
3	ヒューマンケア体験実習	2016.9	科目責任者として円滑な実習運営を補助した。また、施設担当者として、施設と連携し、演習が円滑に行えるよう調整し、学生主体となって学べるようファシリテートを実施。関係職種や対象を通して学生は多職種協働を理解していた。最終発表会では施設の指導者からも良い評価を得た。

(4) 論文指導

1	修士課程	2016.4~2016.12	副指導:1名
2			
3			

(5) その他

1	FD研修会	2016.4~2017.3	学部前期後期、大学院前期後期のFD研修へ参加し、自己の教育能力の向上を図った。
2	学生への就職相談	2016.4~2017.3	卒研・総合実習等を通して学生の就職相談等を実施した。
3			

4. 社会貢献活動

(1) 講演会、研修会等の講師

	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	臨床指導者研修会	県立大学	臨床指導者としての現状と課題へのファシリテート	2017.1
2	オレムワークショップ(研修会)及びオレム推進連絡会	埼玉県立小児医療センター	事例検討会にて、オレム理論に基づく実践に関するファシリテート	2016.6~2017.2

3	こどもセルフケアカンファレンス(公開講座)	兵庫県立大学	小児看護学におけるセルフケア理論の構築にむけたワークショップ	2016.7
4	成人移行期支援フォローアップ講座	思春期看護研究会	成人移行期支援に関する講演会の企画・運営	2016.11
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期	
1	該当なし			
2				
3				
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
2				
3				
5. 学内運営(委員会委員)				
1	看護学科 保健委員			
2	看護学科 実習計画調整委員			
3				
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の保有状況				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
	該当なし			